

## ヴィムラ ナドカルニ教授、会長 経歴概要



ヴィムラ ナドカルニ教授（博士）は、2012年より国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）の会長を務めています。2013年にインドのタタ社会科学院（TISS）のソーシャルワーク校の教授を退職しましたが、42年に渡りソーシャルワーク領域において幅広く活動してきました。TISSのソーシャルワーク教育質向上センターの理事長として、後にインド・ソーシャルワーク教育協会の形成につながった全国ソーシャルワーク学校ネットワークをインドにおいて立ち上げました。現在はムンバイ訓練ソーシャルワーカー協会の副会長です。

TISSにて医療及び精神ソーシャルワーク学科の学科長を20年間に渡って担当してから、ソーシャルワーク校の設立時の学長を務めました（2006～2008年）。インド家族計画協会の事務局長としても活動してきました（2001～2002年）。国際的な受賞歴は、フルブライトとケロッグのフェローシップを含みます。2008年に、第2年度ホケンスタッド国際講師になりました。

著書『NGO活動、保健医療及び都市型貧困層』は2009年に出版されました。イギリスのテイラー＆フランシス社が発行している『ソーシャルワーク教育』国際学術誌の「アジアにおけるソーシャルワーク教育－新しい方向性」に関する最初の特別号のゲスト編集者を担当しました。ソーシャルワーク教育、人権、そして関連する課題について活発に執筆しています。IASSWの会長として、複数の国際会議に基調講演の講師として世界中から招待を受けています。

## IASSWのビジョン

**「世で見たいと願う変化に、あなた自身がなりなさい。」――マハトマ・ガンジー**

社会、文化、経済、政治の面で直面している絶えずの難解な変化を目の前にして、IASSWに対する私自身のビジョンは、変化の方向性を導くためにまずは変化を受け入れることと断言したいと思いません。

グローバルな規模で活動する国際ソーシャルワーク学校連盟に対する私のビジョンは、専門性の最も高い基準に到達できるようにソーシャルワークの教育者を育成し、エンパワーメントすることです。国際、地域、国内の全てのレベルにおいて他の組織とネットワークを形成することが極めて重要です。より良く、安全な未来に向けて、社会的及び環境的な課題に関する国際的な政策に影響を与えるために、協力関係を構築することを目指したいと思えます。被災の状況に置かれているソーシャルワーク校への支援に関して、IASSWは重点的に対応してきました。様々な危機的な状況に即時に、かつ自

信をもって対応できるようになれるよう、教育者と学生に、知識、スキル、態度を身につけるために必要なこの継続的使命を更に強めたいと思います。国際的な課題に対して IASSW がより大きな政策的な影響力をもつために、国連機関と協働することが不可欠である以上、これらの協働関係を更に強め、更に増やすための全ての機会を活かそうと考えています。

デジタル革命を経て、情報の普及が容易になりました。IASSW ウェブサイト、フェイスブック、ツイッター、リンクトインのサイトの活用を通して、IASSW は全ての利害関係者により効果的にアプローチできると確信しています。これらは、カリキュラム、調査研究、発行物に関する考えを共有するための共通基盤を提供できるための手段でもあります。ソーシャルワーク校の知見に自由にアクセスできる知的資源の中核としての IASSW の評判を高めたいと思います。

IASSW は、ソーシャルワーク教育が社会的な認知を得ることに苦戦している地域におけるキャパシティ・ビルディングに取り組む理念をもっています。このような国々においてソーシャルワーク校と教員のキャパシティ・ビルディングのための戦略を考える上で、各地域連盟との協働が重要です。このようなプロセスは南アジアでは既に始まっており、これからも活力を増します。

IASSW の学校会員と個人会員のソーシャルワーク教育者からなる会員ベースを増やすために、理事会と各地域連盟と一緒に最大限の努力をしてきました。会議や各種デジタル空間において IASSW のビジョンと理念に関して発信できる全ての世界的な機会をこれからも活かし続けていきます。

これら、またその他の新たな戦略を採用することで、IASSW がよりプレゼンスを示し、社会変革、社会開発、社会的結束、人々のエンパワーメントと解放を目指す実践的な専門職及び学問としてのソーシャルワークの将来にインパクトを与えるように描いています。